

赤崎中学校 出前授業（放射線の観察）

日時： 2014年2月12日

場所： 大船渡市立赤崎中学校

参加者： 中学校3年生40名、教員1名

単元： 科学技術と人間

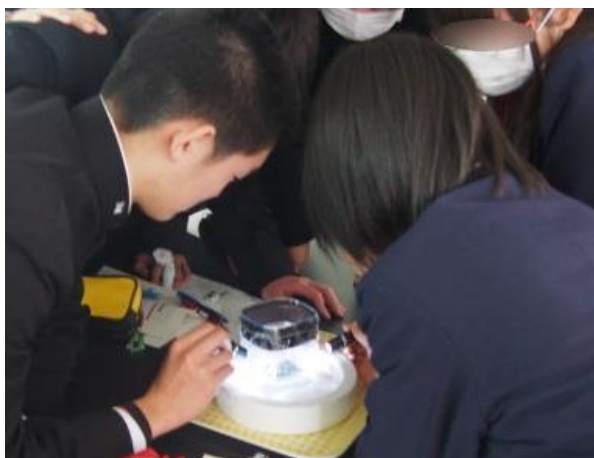
講師： 竹下 陽子（お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター 特任講師）

実施方法：

本単元では、原子力発電について燃料から発生する放射線への正しい知識を得ることが求められているが、目に見えない放射線の存在を理解するための教材開発は、なかなか困難である。そこで、お茶の水女子大学で開発したオリジナルの放射線観察装置（霧箱※）と、放射線を測定する機器を貸し出し、放射線についてより効果的に理解を促す授業プログラムを出前授業として実施した。観察活動および放射線の測定については、5-6人程度のグループで活動を行い、いずれもワークシートを用いた。※霧箱は、特殊な環境下で放射線が通った飛跡を目で確認することができる

実施結果：

観察活動を通して、教科書にある文字・数字のみでは分からない、放射線の様子を確認することができた。この活動を通して、放射線の種類や特徴をより深く理解することにつながった。



アンケート結果(感想)：

- ・放射線についてもっと調べてみようと思いました。(生徒)
- ・実際に実験を行い、放射線の軌跡を見ることができて、貴重な体験になったと思います。(生徒)
- ・放射線が理科室の中にどのくらいあるのかわかった。放射線がどのように飛んでいるのか、実験を通してわかった。(生徒)